



公明党千葉市議会議員団 議会報 美浜区版

小さな声を形に！伊藤こうへい通信

令和7年度第3回定例会

～ 令和6年度決算～

令和7年9月4日から10月2日にかけて、第3回千葉市議会定例会が開催されました。

本定例会は、令和6年度の決算審査を主な目的とし、会派としても代表質疑や分科会を通じて意見を述べ、討論とあわせて誠実な対応を求めましたので、ご報告いたします。

令和6年度決算に賛成の立場から討論 ～主な概要について～

令和6年度決算における一般会計・特別会計の実質収支は、55億3,702万円の黒字となりました。一般会計においても29億8,200万円の实質収支が確保された一方で、財政調整基金残高は対前年度比50億円の減で99億円となり、将来不安も感じる厳しい財政運営であったと捉えております。

しかしながら、病院事業の累積赤字額や基金からの借入残高は依然として多額ではあるものの、全会計市債残高で37億円、基金借入残高で10億円、いずれも対前年度比で削減するなど、中期財政運営方針を踏まえた財政運営であったことや、実質公債費比率及び将来負担比率は引き続き同方針で定められた水準の範囲内となったほか、資金不足比率はいずれの会計においても発生しておらず、財政の健全性が一定程度保たれたことが確認できました。

各種施策につきましては、長期化する物価高騰への機動的な対応をはじめ、JR駅周辺等への防犯カメラ設置推進、避難行動要支援者の個別避難計画の作成や犯罪被害者等支援などの安全安心の取組み、超高齢化社会への対応として、福祉まるごとサポートセンターにおけるアウトリーチ支援やフレイル予防として医療専門職の全区配置が進められました。また、市民福祉の向上では、こども発達相談室の開設に障害者就労施設等からの優先調達の大幅増、子ども医療費助成の対象拡大に不登校対策における諸施策が拡充されたほか、都市の魅力・活力の向上では、税源の涵養に資する企業立地、脱炭素先行地域事業の展開やバス路線維持の支援などが実施されました。厳しい財政運営の中、市民生活に密着した幅広い施策の展開がなされており、評価するところであります。



千葉市役所

●●●●● 代表質疑より一部抜粋 ●●●●●

病院行政 ～青葉・海浜病院事業の赤字と累積欠損金の解消を求める～

病院事業は、平成23年4月より地方公営企業法全部適用に変更し、経営の黒字化を一旦果たすものの、その後は医業収入を確保することができず、令和元年度まで赤字が続く状況でした。

令和2年度からは、国からのコロナ関連補助金もあり、3期連続で黒字に転じたものの、補助金終了後の令和5年から再び赤字に転じております。

これまで本市では、「千葉市病院改革プラン」を策定し、青葉・海浜両市立病院の運営形態を見直し、経常収支比率や病床利用率の改善に努めてきました。平成24年度にスタートした第2期プラン以降は、市立病院の使命である「市民が必要とする安全・安心な医療の提供」、「健全な病院経営の確立と維持発展」を掲げ、主に医業収入や経常収支の改善を目標とし、経営改善に向けて取組みを進めてきました。

令和6年度決算では、医業収益が188億円と前年度に対し10億円増となる一方で、医業費用は給与費や材料費の増などで、前年度に対して20億円増え、医業収支はマイナス66億円、医業外収益は、一般会計からの繰入金57億円、医業外費用2億円で経常収支はマイナス11億円、純損失は13億円と大変厳しい決算となりました。

今後も病院事業は、新病院建設に伴う物価高騰費用への対応、老朽化した青葉・海浜両病院の修繕費用や新病院完成後の海浜病院解体費用など、多額な財政需要が見込まれております。

答弁では、経営見通しについて、当面は厳しい経営見通しが続くことが見込まれますが、病床利用率の向上や新病院におけるがんの集学的治療体制の強化など、高額医療の提供、有料個室の増設等により、収益増を図りながら、経常収支の黒字化を目指し病院改革に取り組むとあります。

傷病者の受入れを堅実にしつつ、経常収支の黒字化と経営の安定化は勿論のこと、累積欠損金の削減に努められることを求めました。



新病院鳥観図

特集・皆さんの声が市政を動かす!～活動トピックス～

循環経済・サーキュラーエコノミー ～廃棄される製品や原材料など資源が循環する経済構造へ～

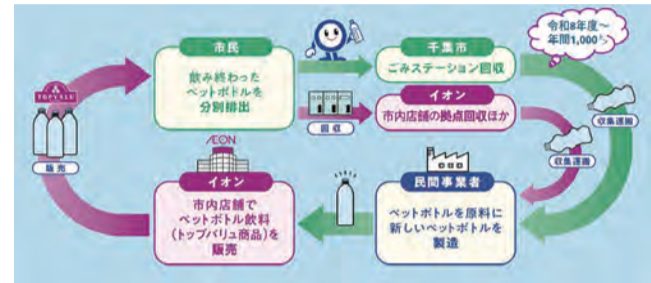
2024年2月の第1回定例会で、議会として初めて、「循環経済・サーキュラーエコノミーの推進について」を取り上げ、継続して千葉市の新たな経済活動として定着することを願い取組みを続けていきます。

循環経済・サーキュラーエコノミーは、従来の環境と経済が両立した社会を形成していくための廃棄物の排出抑制・再使用・再資源化（Reduce・Reuse・Recycle（3R））の取組みに加え、資源投入量や消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動を指し、資源や製品の価値を最大化させつつ、資源消費を最小化し、廃棄物の発生抑制などを指すものです。

2025年6月に、千葉市とイオン株式会社は、循環経済・サーキュラーエコノミーの実現を目指し、家庭から排出されるペットボトル、単一素材製品プラスチックの資源材料などに関して、連携協定を締結しました。

★連携協力の内容として

- ①ペットボトルの水平リサイクルに関すること
- ②単一素材製品プラスチックの拠点回収・再資源化に関すること
- ③小型充電式電池の安全な分別回収に向けた取組みに関すること
- ④3R教育に関すること
- ⑤その他、本協定の目的達成に資すること



ペットボトルの水平リサイクルの流れ

★協定に基づく主な取組み

- ①ペットボトルの水平リサイクル（ボトル to ボトル）→令和8年度開始
千葉市でステーション回収されたペットボトルのうち約1,000トンを、イオンのプライベートブランドである「トップバリュ」のペットボトルとしてリサイクル、千葉市内のイオン、イオンスタイルの各店舗で販売されます。
- ②単一素材製品プラスチックの拠点回収・再資源化→現在実施中
市内19か所の公共施設に加えて2025年6月からは、イオンモール幕張新都心でも単一素材の製品プラスチック（15品目）を無料で回収し、新たなプラスチックを作るための原料として再利用しています。



イオンモール幕張新都心回収ボックス

令和7年度より千葉市において、議会で取り上げた循環経済・サーキュラーエコノミーの取組みが開始されています。

大量生産、大量消費、大量廃棄という一方通行型経済から資源を循環させる経済構造に転換する社会を目指し引き続き取組んでまいります。



回収品目（15品目）

介護支援専門員の研修受講料の補助事業を推進 ～千葉県・千葉市で法定研修受講料の一部補助事業が開始～

2017年の第2回定例会で取り上げて以来、高額な介護実務者の資格更新研修費用に関わる経済負担の軽減を求めてきました。特に、主任介護支援専門員の実務者研修費用は各県で異なり、事業者や有資格者の経済的負担は大きく、5年に一度の資格更新をためらう声が多くなっていることを鑑み、公明党千葉県議団に負担軽減対策を改めて本年1月に要請しました。

県議団では、これまで常任委員会での指摘をはじめ、代表質問や予算要望など継続的な働きかけを行っているとの説明がありました。こうした地方議員間の連携を通じて、これまでの県議団の取組みが実を結び、本年4月から「千葉県介護支援専門員研修受講料補助事業」が実施されています。

これまで県議団としても2024年7月の常任委員会で鈴木和宏県議（市原市選出）が負担軽減について求めていると説明があり、こうした県議団の取組みが、本年4月開始の千葉県介護支援専門員研修受講料補助事業につながっています。

補助対象の研修及び補助額等（令和7年度）

研修名	受講料	補助額	補助後の受講料
①専門研修課程Ⅰ	38,000円	5,000円	33,000円
②専門研修課程Ⅱ	28,000円	5,000円	23,000円
③更新研修（前期・後期）	66,000円	各5,000円	56,000円
④主任介護支援専門員更新研修	43,000円	10,000円	33,000円

※千葉県内に登録がある介護支援専門員・主任介護支援専門員、県内介護事務所等で勤務する方



2025年1月公明党千葉県議団に要請

問合せ先

- 1) 補助の利用等に関すること
一般社団法人 千葉県介護支援専門員協議会
〒260-0026 千葉市中央区千葉港4-5
千葉県社会福祉センター5階
電話：043-204-3631
(土日を除く9時～17時半)
HP: <https://www.chiba-cmc.com/12268/>
- 2) その他、補助事業に関すること
千葉県健康福祉部高齢者福祉課介護保険制度班
〒260-8667 千葉市中央区市場町1番1号
電話：043-223-2387（土日祝日を除く）

参考：（千葉市）主任介護支援専門員資格取得者支援事業 ※新規取得
主任介護支援専門員研修の受講に要した費用の全額（上限25,000円）について助成。
問合せ先：千葉市 介護保険管理課 043-245-5206 ※詳細はHPにも掲載しております

市政に関するご意見ご要望をお寄せください。

千葉市議会議員

伊藤こうへい

〒261-0001
千葉市美浜区幸町2-6-1-408

Tel
070-7667-3094